

「動機・・・スカウト活動へ」

増田多加男

「いつ頃からスカウト活動に参加したのか・・・」というある方の質問に答えたコメントを「動機」として、ここに記載しておきます。
大した考えも無く子供の頃に入団したのが、こんなに長く続くとは、当時は思いもしませんでした・・・

スカウト活動へ参加したのは、12歳になってすぐくらいでした。
愛知連盟碧海地区安城1団から分封した安城2団ができて1年くらいしてから
の安城2団ボーイ隊へ途中入団です。
その頃はまだ、安城2団にCS隊は存在していませんでした。
入隊後しばらくしてから、初の発団セレモニーがありました。

母方の叔母がBS隊の隊長と結婚、親戚中の男の子供に声が掛かり、新しく叔父さんになった人が隊長で、入団。

中2の時に第5回朝霧高原日本ジャンボリー、中3の時に第13回世界ジャンボリー朝霧高原IN日本に参加できました。
1・2歳上の先輩達はシニア班として存在していました。
私達同年3人がシニア隊に上進し、安城2団シニアSS隊が正式結成され、隊としての第一期生となりました。

SS(シニアスカウト)とRS(ローバースカウト)の時は、安城市内のお寺の住職である鈴木了生さん(当時の日本連盟総コミッショナー<副コミの時もありました>・現先達)が隊長を引き受けて下さり、プレッシャーを感じながら様々な活動を実行しました。副長が日本山岳会所属の山屋の野沢さん(市役所勤務)でした。

他の指導者の方々も、みんな若く20代~30代前半で、登山・ワンゲル・サイクリング等の市内若手男女専門家グループからの出身でした。

SS・RS 頃の 7 年間に鈴木隊長・野沢副長の多大なバックアップを受け、山岳系・長距離移動・離島無人島・イカダ・雪中・ヨット・カヌー・自転車移動・各隊後輩達へのサポート等～果敢にチャレンジしました。

・・・失敗惨敗ばかりでしたけど。

高校 1 年生時では、愛知県連主催の SS トレーニングで福井県の日本海から琵琶湖長浜と関が原あたりを經由、太平洋まで山越えしたこともありました。

もの凄く過酷で遠かったです。

愛知県連のおっさん達が考えたコンセプトは、「日本海の海水を太平洋にそそげ！」というもの。

個人装備野営装備以外にも意味のない重い海水を余分に背負い、ひたすら歩きました。

今考えると無意味ですなあ～。

この「日本海の海水を太平洋にそそげ！」を安城 2 団 SS 隊のオリジナルプログラムとして定例化した時は・・・

この第一回愛知県連 SS トレーニング「日本海～太平洋行脚」に参加したメンバーが RS になって、BS 隊 SS 隊の指導者を兼務した時でした。

当時の指導者は、谷沢さんと私の一つ上の天野さん、そして私でした。

その時の SS メンバーに金海が含まれていました。

「あんなキツイ長距離徒歩移動は俺達だけやったんじゃツマラン。後輩たちにも経験して貰わんと割りに合わんぞ！！それに絶対に彼らのためになるしな！！」

と思いつつながら、後輩の金海たちに提案・SS 会議で決定していったように記憶しています。

ですから、湘南地区藤沢 8 団 SS・VS 隊の活動の源は全て、安城 2 団の SS/RS 時代にありました。

藤沢 8 団に関係するようになって、安城 2 団 SS/RS 時代での昔の失敗した笑話をいつもしていたら、スカウト達・団関係者達みんなが、やってみたい、やりたい・やろう・・・ということになって・・・活動内容が継続した・・・続いたのです。

藤沢 8 団：F8 に関係した経緯は、20 年前の 30 歳の頃四国の四万十川をカヌーで下ってきた写真を（東京の設計事務所勤務時代）のデスクの上に放置していたら、当時の上司が見て、F8 のシニア連中にカヌーレッスンを頼まれたのが最初でした。

それから・・・湘南地区関係です。

* 1987 年に実行した四万十川カヌー下りは、当時作家デビューした野田知祐氏の名著「日本の川を旅する」(日本ノンフィクション賞新人受賞だったか?) を読んで感銘を受け、私も清流四万十川と那珂川にリバーツーリングを行こうと思いました。この頃は、椎名誠氏「わしらは怪しい探検隊」も発刊され、雑誌ビーパルも創刊された頃でした。